

Ⅲ章 各教科の取組

国 語 科

1 育成したい「思考力」

- a 論理的思考力：ことばとそれが指し示す意味，ことばとことばの関係，ことばとその使用者について，既成の秩序の中で吟味する力
- b 想像力：ことばとそれが指し示す意味，ことばとことばの関係，ことばとその使用者について，五感を通して得てきた知識や経験と結んで創造する力
- c 言語感覚：ことばの使い方の正誤，適否，美醜等について，直感的・感覚的にとらえる力

a 「論理的思考力」とは

○ ことばとそれが指し示す意味において

そのことばの整合性を吟味することである。例えば『もうどう犬の訓練』（東京書籍3年下）では、「『いっしょに町を歩く練習をします。』と、1か所だけ『練習』ということばが使われているが、これは訓練ではないのか。」「練習ということばには、訓練とは違った意味があるのか。」と、自分の経験と照らし合わせながら、ことばとそれが指し示す意味の整合性について吟味する思考である。

○ ことばとことばの関係において

文のねじれ，順序，主張と根拠の整合性等，叙述相互の整合性について吟味することである。形式論理（帰納論理，演繹論理）は，この思考に含まれる。例えば，自分の意見を述べる際，「根拠として何を挙げればよいか」「事例としてふさわしいものは何か」と，話す内容を吟味するのがこの思考である。

○ ことばとその使用者において

そのことばの使用者の意図をとらえ，その整合性について吟味することである。『森林のおくりもの』（東京書籍5年下）には，木が長生きであることを述べている部分がある。その部分について，「筆者が，読み手のよく知っている例を挙げているのは，読み手の納得を得ようとしているからだ。」等，筆者の意図について吟味することがこの思考である。

b 「想像力」とは

○ ことばとそれが指し示す意味において

一語・一文を経験とつなぎながら読み取ることである。『かさこじぞう』（東京書籍2年下）に「じいさまは，ぬれて つめたい じぞうさまの かたやら せなやらを なでました。」という叙述がある。その一文から「じぞうさまは石でできているから，さわると，きっと氷のように冷たいよ。」「ぼくは，『じぞうさま，こんなにつめたくなってつらかりうにのう。』と，じいさまがじぞうさまを思う気持ちを考えたよ。」等と，様子や気持ちを思い描くのがこの思考である。

○ ことばとことばの関係において

類似していることばや対比的なことばの関係を讀んだり，文脈とことばの関係をとらえたりすることである。『注文の多い料理店』（東京書籍5年下）には，「金文字→水色の戸→黄色な字→赤い字→黒い戸」のように色が象徴的に用いられている。これらと比較してその意味を考えたり，紳士の心情の変化と重ねてとらえたりするのがこの思考である。

○ ことばとその使用者において

ことばを根拠に，物語の主題や，書き手・話し手の意図等をつかみ，自分の考えをつくり上げていくことである。例えば，単元「豊かな日本語の使い手になろう」（東京書籍6年下）において，日本語について書かれた文章の筆者の主張に共感したり，さらに自分の経験とかかわらせたりしながら，自分の考えをつくり上げていく際に働くのがこの思考である。

c 「言語感覚」とは

○ 正誤…… 語の使い方や文の組み立て方について，言語規範に合っているか否かを直感的に判断・評価する能力。

○ 適否…… 物事を適切に言い表しているか，場や相手にふさわしい表現か等，表現の妥当性や効果を直感的に判断・評価する能力。

○ 美醜等… 美しい・汚い，明るい・暗い，固い・柔らかい，重い・軽い等，あるいは軽快，重厚，優美，勇壮等，表現の微妙なニュアンスを直感的に判断・評価したり感覚的に味わったりする能力。

2 「思考力」を育成するための思考様式

「話すこと・聞くこと」	「書くこと」	「読むこと」																		
<p>【話題設定や取材】</p> <p>1年「どうぶつのはな」 自分が一番おもしろいと思った部分を選ぶ</p> <p>【話すこと】</p> <p>1年「きいてきいて」 詳しく話す際、「似たものと比べて言う」「理由を言う」</p> <p>2年「教えてあげる、たからもの」 絵と話す内容が合っているかを確かめる</p> <p>2年「まよい犬をさがせ」 物事を説明する際には、全体から部分への順で行う</p> <p>3年「もうどう犬の訓練」 筋道立てて話す際には</p> <p style="text-align: center;">考えに理由を付けて話す</p> <p style="text-align: center;">例 くわしい事実 自分の経験</p> <p>5年「自分の考えを伝えるスピーチをしよう」 主張の理由→反論の組み立てにする</p>	<p>【課題設定や取材】</p> <p>6年「言葉の意味を追って」 主張に合った根拠を挙げる</p> <p>【構成】</p> <p>2年「たんぼぼ」「たんぼぼのちえ」 簡単な構成をとらえるには</p> <p style="text-align: center;">分かりやすく伝える</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>①大きく変わったところに目を付ける</td> <td>②変わっていく順序に目を付ける</td> <td>③「感じたこと」とつなぐ</td> </tr> <tr> <td>形、色、大きさ等に目を付ける</td> <td>「いつ」を表すことばとつなぐ</td> <td>「そうなるわけ」とつなぐ</td> </tr> </table> <p>3年「出来事をつたえよう」 いつ・どこで・だれが・どんなといったことを落とさずに書く</p> <p>4年「ヤドカリとイソギンチャク」 問いの段落・答えの段落を構成する</p> <p>【記述】</p> <p>4年「ヤドカリとイソギンチャク」 話題提示の部分を、読み手を引きつけるように書く</p> <p>【推敲】</p> <p>2年「ビーバーの大工事」 読む相手が分かることばを使って書く</p> <p>2年「ビーバーの大工事」 説明にあった絵をかく</p>	①大きく変わったところに目を付ける	②変わっていく順序に目を付ける	③「感じたこと」とつなぐ	形、色、大きさ等に目を付ける	「いつ」を表すことばとつなぐ	「そうなるわけ」とつなぐ	<p>【説明的な文章の解釈】</p> <p>1年「どうぶつのはな」 写真とつなぐ</p> <p>3年「自然のかくし絵」 中心文をとらえるには</p> <p style="text-align: center;">段落の中で筆者が伝えたいことを最もよく表している文を見つける</p> <p style="text-align: center;">「おわり」の内容と関係のある文を見つける</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>つち他の文を見</td> <td>着て文目するに</td> <td>見繰り返さば</td> <td>見あることば</td> <td>題名と関係</td> </tr> </table> <p>5年「新聞記事を見比べよう」 新聞記事の書き手のメッセージをとらえるには</p> <p style="text-align: center;">「見出し」写真「本文」に共通するメッセージを見つける</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>見出しから伝わってくる</td> <td>写真から伝わってくる</td> <td>本文から伝わってくる</td> </tr> </table> <p>【文学的な文章の解釈】</p> <p>1年「はるのゆきだるま」 登場人物やその人物の周りの様子をとらえるには</p> <p style="text-align: center;">場面の様子を見る</p> <p style="text-align: center;">前の場面の様子を見る</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>人物</td> <td>人物の周り</td> </tr> <tr> <td>行動</td> <td>会話</td> </tr> </table>	つち他の文を見	着て文目するに	見繰り返さば	見あることば	題名と関係	見出しから伝わってくる	写真から伝わってくる	本文から伝わってくる	人物	人物の周り	行動	会話
①大きく変わったところに目を付ける	②変わっていく順序に目を付ける	③「感じたこと」とつなぐ																		
形、色、大きさ等に目を付ける	「いつ」を表すことばとつなぐ	「そうなるわけ」とつなぐ																		
つち他の文を見	着て文目するに	見繰り返さば	見あることば	題名と関係																
見出しから伝わってくる	写真から伝わってくる	本文から伝わってくる																		
人物	人物の周り																			
行動	会話																			
<p>【聞くこと】</p> <p>2年「せかいのかくれんぼ」 話題に沿って話すには</p> <p style="text-align: center;">前の人の話をうけて話す</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>分からないこと、知りたいことを質問する</td> <td>相手の考えを確かめる</td> <td>友達の考えについて自分の考えを話す</td> </tr> </table> <p>【話し合うこと】</p> <p>2年「せかいのかくれんぼ」 話の内容をまとめるには</p> <p style="text-align: center;">組み合わせる方法を見つける</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>同じものや似ているものは、一つにする</td> <td>違うものは、うまくできそうなつなぎ方を見つける</td> </tr> </table>	分からないこと、知りたいことを質問する	相手の考えを確かめる	友達の考えについて自分の考えを話す	同じものや似ているものは、一つにする	違うものは、うまくできそうなつなぎ方を見つける	<p>2年「お手紙」 人物の様子や気持ちを想像豊かにとらえるには</p> <p style="text-align: center;">いくつかのことばをつなぐ</p> <p style="text-align: center;">前の場面のことばとつなぐ</p> <p>3年「サーカスのライオン」 音読する際には</p> <p style="text-align: center;">ことばのイメージに合わせる</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>そのことばがもっているイメージ</td> <td>他の場面のことばと比べた時のイメージ</td> </tr> </table> <p>4年「ごんぎつね」 あらすじにまとめるには</p> <p style="text-align: center;">場面ごとに出来事を見つけて、それぞれをつないで書く</p> <p style="text-align: center;">山場の前後の登場人物の変化が分かるように書く</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>幸せな出来事から悲しい結末へ</td> <td>悲しい出来事から幸せな結末へ</td> </tr> </table>	そのことばがもっているイメージ	他の場面のことばと比べた時のイメージ	幸せな出来事から悲しい結末へ	悲しい出来事から幸せな結末へ	<p>3年「ゆうすげ村の小さな旅館」 登場人物の関係をとらえるには</p> <p style="text-align: center;">場面ごとの主人公の気持ちを比べる</p> <p style="text-align: center;">主人公が、他の人物をどのように思っているのかが分かるところに目を付ける</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>会話</td> <td>行動</td> <td>様子</td> </tr> </table> <p>4年「夏のわすれもの」 物語の盛り上りを伝えるには</p> <p style="text-align: center;">もつとやなことばはないか そのことばが良かったらどうか</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>会話</td> <td>行動</td> <td>人や周りの様子</td> </tr> </table> <p>5年「注文の多い料理店」 (主題読みのために) 始めと終わりの人物の変化やその原因を図で表す</p> <p>5年「注文の多い料理店」 オノマトペ、色彩語から人物像を想像する</p>	会話	行動	様子	会話	行動	人や周りの様子			
分からないこと、知りたいことを質問する	相手の考えを確かめる	友達の考えについて自分の考えを話す																		
同じものや似ているものは、一つにする	違うものは、うまくできそうなつなぎ方を見つける																			
そのことばがもっているイメージ	他の場面のことばと比べた時のイメージ																			
幸せな出来事から悲しい結末へ	悲しい出来事から幸せな結末へ																			
会話	行動	様子																		
会話	行動	人や周りの様子																		

※ これらの思考様式は、実践の一部であり、全てを掲載しているものではありません。

3 国語科におけるユニバーサルデザインの働きかけ

(1) 思考対象を「図」とするために

① 情報を精選し、選択の場を設定したり、手元で操作させたりする

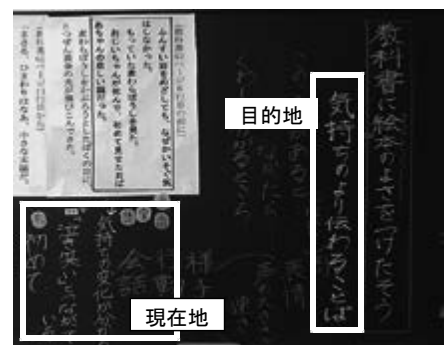
第2学年『お手紙』の実践では、登場人物の気持ちを行動や会話などのことばから探っていた。本時の学習場面のことばと前の場面のことばをつなぐ際、教師は前の場面の行動や会話の中で、特に本時の場面の会話とつながりの深いものを選択して補助黒板に提示しておいた。子どもたちは、それらのことばの中からさらに気持ちを想像する手がかりとすることばを選択し、その後、そのことばの書かれた付箋を本時の挿絵の近くに移動させて貼り付けた。時間が進むにつれて薄れがちになる、前の場面のことばとのつながりを強く意識付けることができ、人物の行動や会話という思考対象が強調された。



② 板書に思考の目的地と現在地を示す

第4学年『夏のわすれもの』では、教科書の文章と、その原典となる絵本とを比べながら、物語を紹介するためにふさわしい叙述を見つけていった。子どもたちは、その叙述が「あるとどうか」「なかったらどうか」という思考様式を用いて叙述を吟味していった。

その際、「気持ちのより伝わることば」を見つけることを目的地として強く意識付けられるよう、それを学習課題と並べて明記した。さらに、各自が選んだ叙述に名前磁石を貼り、それを選んだ理由をつないで板書することで思考の現在地を示した。自力解決後の話し合いでは、どの意見においても「気持ちのより伝わることば」という共通の視点をもって選んだ叙述を吟味することができた。



(2) 思考様式を「図」とするために

① 指導方略の組み合わせにより、思考の視点を強調する

第4学年『ごんぎつね』で、物語の山場をとらえてあらすじにまとめる学習の実践例を挙げる。子どもたちは、物語には山場を経て「悲から喜」へと転ずる展開のものと「喜から悲」へと転ずるものがあることを確認した。そして、その視点をもって『ごんぎつね』の山場の前後の変化に目を向けていった。その際、継次処理の子どもには場面ごとの出来事を一つ一つ「悲」「喜」の視点で見つめ直す場を保障し、同時処理の子どもには「つぐないをしたごんが撃たれてしまった」のような抽象的なとらえを具体へと導きながら、「悲」「喜」の視点をとらえられるようにした。このような「部分から全体へ」と「全体から部分へ」の指導方略の組み合わせにより、「悲」「喜」というあらすじをとらえる際の思考の視点が強調された。



② 板書に動きをもたせることにより、思考の視点を強調する

第3学年『ゆうすげ村の小さな旅館』における登場人物の関係の変化をとらえる学習である。ここでは、同シリーズの「干し柿」と「ウサギのダイコン」に出てくる主人公と女の子の関係を「心の距離図」に表し、視覚化するようにした。そして、それらを板書上で対比させることで、子どもたちは、「ウサギのダイコン」では女の子の正体が判明する場面で心の距離が最も近づくが、「干し柿」ではそうはなっていないことに気付いていった。「では、どの場面で心の距離が最も近づくのだろうか」と、板書の「心の距離図」を実際に操作しながら手がかりとした叙述とつないでいった。子どもたちは、心の距離を考えるには人物の外見ではなく内面に目を向けることが大切であることを確認することができた。このようにして人物の関係の変化をとらえる際には、「主人公が他の人物をどのように思っているのかが分かることばに目を付ける」という思考の視点が強調された。

